

## 経営学部 アセスメントプラン

## アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DPI.1 ～ DP3.2	毎年度末等	卒業学年	卒業論文等の学修成果及び卒業時の総合的な学修成果	各教員及び学科会議	【各教員】 演習担当教員が、演習に所属する学生の学修達成度評価に活用する。  【学科】 学科は、評価結果を集約し、学科会議における授業内容・方法の検討、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用する。また、ルーブリックの改善・更新に活用する。
2	卒業アンケート	DPI.1 ～ DP3.2	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度	教授会、全体会議、学科会議	学生センターが学部単位及び学科単位での集計結果を学部へ報告し、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
3	学部長会談	DPI.1 ～ DP3.2  CP	毎年1回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度、学生生活に関する要望等	学部長	実施後、必要に応じて、学部長の指示により学生センターは学生からの意見・要望を学部へ報告する。  【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】 学部は、会談内容をもとに授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用する。必要に応じて、学部長の指示により

							<p>学科会議・各種委員会は会談内容に関する改善を図る。</p> <p>【学生生活に関する要望】 学生センターは、内容を精査し、学修・生活環境の改善に活用する。必要に応じて、学部長の指示により各種委員会は会談内容について検討を行い、改善を図る。</p>
4	全国学生調査	DPI.1 ～ DP3.2  CP	毎年1回	2年次 4年次	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の印象	教授会、全体会議	<p>集計結果がIR・教育支援センターより学部に提供される。学部は、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実に活用する。必要に応じて、学部長の指示により、各学科・各種委員会は調査結果について検討を行い、改善を図る。</p>
5	学修振り返りアンケート	CP	每学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	各教員 教授会、全体会議	<p>学生センターは、結果をとりまとめ、各教員及び学部に報告する。</p> <p>【教員】 教員は、アンケート結果を授業方法の改善に活用する。また、リフレクションペーパーの作成により、自らの授業へのフィードバックの結果を公開する。</p> <p>【学部】 学部は、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用する。</p>
6	成績不振学生、休退学の調査	CP	每学期1回 (成績不振)、随時 (休退学)	全学年	学業不振の状況(GPA、修得単位数、留年者数)、休学者数、退学者数	各教員 教授会、全体会議	<p>【教員】 各教員は、担当する個々の学生に対し面談等を実施し、修学及び学修支援に活用する。</p> <p>【学部】 学生センターは、学籍異動に関連して休退学の理由を教授会・全体会議に報告する。学部は、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用する。必要に応じて、学部長の指示により学科会議・各種委員会は報告内容について検討を行い、改善を図る。</p>
7	GPS-Academic (3年次を基本)	CP	毎年1回	原則3年次	学修行動、授業・カリキュラム満足度	教授会、全体会議、学科会議	<p>IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が、調査結果を学部に報告する。学部及び学科は、キャリア支援、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実に、自己点検・評価、情報公開に活用する。必要に応じて、学部長の指示により、各種委員会は調査結果について検討を行い、改善を図る。</p>

8	英語プレイ スメントテス ト・英語統一 試験	CP	毎年1回	1~2年次	外部英語テスト	英語科目担当 者会議	英語科目担当者会議は、入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス編成に活用する。また、入学後の学修進度を把握し、クラス編成とカリキュラム改善に活用する。
9	就職状況 (卒業直後 の進路)	CP AP	毎年4~5 月頃	最終学年	就職率、就職先に関する業 種分布、近畿大学の中期経 営計画と関連する就職情報	就職委員会	集計結果がキャリアセンターより提供される。就職委員会は、この結果を学生の進路とカリキュラムの整合性の観点から検討する。必要に応じて、就職委員会から各学科会議・各種委員会に検討内容が連携される。
10	GPS- Academic (1年次)	AP	毎年4~5 月頃	1年次	本学への満足度、入学前の 学習状況、海外留学への意 識、卒業後の進路	教授会、全体 会議	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が調査結果を学部へ報告する。学部は、入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用する。必要に応じて、学部長の指示により、各種委員会は調査結果について検討を行い、改善を図る。

## 経営学部 経営学科アセスメントプラン

## アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や自己評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DPI.1 ～ DP3.2	毎年度末等	卒業学年	卒業論文等の学修成果	各教員及び経営学科会議等	演習担当教員が、演習に所属する学生の学修達成度評価に活用する。評価結果を経営学科等で集約し、経営学科の授業方法やカリキュラム改善のために経営学科会議で必要な点の共有、議論を行うとともに、自己点検・評価に活用する。また、経営学部並びに経営学科で作成されるルーブリックの改善・更新に活用する。
2	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	経営学科会議等	学生センターが教授会・全体会議に報告した内容に基づき、経営学科に関わる点について、経営学科会議等を通じて共有、議論を行い、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
3	GPS-Academic（3年次を基本）	CP	毎年1回	原則3年次	学修行動、授業・カリキュラム満足度	経営学科会議等	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が学部で報告した内容に基づき、経営学科に関わる点について、必要に応じて経営学科会議等において共有、議論を行い、キャリア支援、学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援、低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
4	GPS-Academic（1年次）	AP	毎年4～5月頃	1年次	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学への意識、卒業後の進路	経営学科会議等	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が学部で報告した内容に基づき、経営学科に関わる点について、必要に応じて経営学科会議等において共有、議論を行い、入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用する。

## 経営学部 商学科アセスメントプラン(案)

## アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や自己評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DPI.1 ～ DP3.3	毎年度末等	卒業学年	卒業論文等の学修成果	各教員及び商学科会議等	演習担当教員が、演習に所属する学生の学修達成度評価に活用する。評価結果を商学科等で集約し、商学科の授業方法やカリキュラム改善のために商学科会議で必要な点の共有、議論を行うとともに、自己点検・評価に活用する。また、経営学部並びに商学科で作成されるルーブリックの改善・更新に活用する。
2	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	商学科会議等	学生センターが教授会・全体会議に報告した内容に基づき、商学科に関わる点について、商学科会議等を通じて共有、議論を行い、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
3	GPS-Academic（3年次を基本）	CP	毎年1回	原則3年次	学修行動、授業・カリキュラム満足度	商学科会議等	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が学部で報告した内容に基づき、商学科に関わる点について、必要に応じて商学科会議等において共有、議論を行い、キャリア支援、授業方法やカリキュラム改善、学修支援、低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
4	GPS-Academic（1年次）	AP	毎年4～5月頃	1年次	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学への意識、卒業後の進路	商学科会議等	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が学部で報告した内容に基づき、商学科に関わる点について、必要に応じて商学科会議等において共有、議論を行い、入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用する。

## 経営学部 会計学科アセスメントプラン

## アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や自己評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができと思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DPI.1 ～ DP3.2	毎年度末等	卒業学年	卒業論文等の学修成果	各教員及び会計学科会議	演習担当教員が、演習に所属する学生の学修達成度評価に活用する。評価結果を会計学科等で集約し、会計学科の授業内容・方法の検討、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用する。また、経営学部並びに会計学科で作成されるルーブリックの改善・更新に活用する。
2	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	会計学科会議等	学生センターが教授会・全体会議に報告した内容に基づき、会計学科に関わる点について、会計学科会議等を通じて共有、議論を行い、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
3	GPS-Academic（3年次を基本）	CP	毎年1回	原則3年次	学修行動、授業・カリキュラム満足度	会計学科会議等	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が学部で報告した内容に基づき、会計学科に関わる点について、必要に応じて会計学科会議等において共有、議論を行い、キャリア支援、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
4	GPS-Academic（1年次）	AP	毎年4～5月頃	1年次	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学への意識、卒業後の進路	会計学科会議等	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が学部で報告した内容に基づき、会計学科に関わる点について、必要に応じて会計学科会議等において共有、議論を行い、入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用する。

## 経営学部 キャリア・マネジメント学科アセスメントプラン

## アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や自己評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DPI.1 ～ DP3.2	毎年度末等	卒業学年	卒業論文等の学修成果	各教員及びキャリア・マネジメント学科会議	演習担当教員が演習に所属する学生の学修達成度評価に活用する。評価結果をキャリア・マネジメント学科等で集約し、キャリア・マネジメント学科の授業内容・方法の検討、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用する。また、経営学部並びにキャリア・マネジメント学科で作成されるルーブリックの改善・更新に活用する。
2	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	キャリア・マネジメント学科会議等	学生センターが教授会・全体会議に報告した内容に基づき、キャリア・マネジメント学科に関わる点について、キャリア・マネジメント学科会議等を通じて共有、議論を行い、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
3	GPS-Academic（3年次を基本）	CP	毎年1回	原則3年次	学修行動、授業・カリキュラム満足度	キャリア・マネジメント学科会議等	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が学部に報告した内容に基づき、キャリア・マネジメント学科に関わる点について、必要に応じてキャリア・マネジメント学科会議等において共有、議論を行い、キャリア支援、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
4	GPS-Academic（1年次）	AP	毎年4～5月頃	1年次	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学への意識、卒業後の進路	キャリア・マネジメント学科会議等	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が学部に報告した内容に基づき、キャリア・マネジメント学科に関わる点について、必要に応じてキャリア・マネジメント学科会議等において共有、議論を行い、入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用する。